

遠野遺産

Tono Heritage
2022.3

令和3年度版公式ガイドブック

特集

義経北行伝説と遠野遺産

おらほの遺産活用術

新認定遠野遺産紹介

遠野遺産解説

遠野遺産のしくみ

遠野遺産マップ

発行：遠野市

遠野遺産第166号 遠野宮守わさび

義経 北行伝説 と 遠野遺産

悲運の武将・源義経。平家討伐の功労者だったが、兄・源頼朝に疎まれ最期は平泉で自刃。しかし密かに平泉から脱出し北へ逃れたという「義経北行伝説」が岩手県や青森県、北海道の各地に残っている。本特集では義経伝説にまつわる遠野遺産を紹介する。

源義経とは？

源義経(1159~1189)の幼名は牛若丸で、鎌倉幕府を開いた頼朝は異母兄にあたる。平治の乱(1159)で父・義朝が平清盛に敗れ討ち死にした後、京都の鞍馬寺に預けられた。16歳で寺を脱し、奥州平泉の藤原秀衡の庇護を受けた。治承4年(1180)に頼朝が平家打倒のため挙兵したことを知り、兄のもとに駆け付けた。義経は壇ノ浦の戦いなどで平家をやぶり最大の功労者となった。しかし、頼朝の許可なく朝廷から官職を受けたことなどで不興を買い、追われる身となった。義経は再び平泉に身を寄せたが秀衡が死ぬと、後継ぎの泰衡は頼朝の圧力に耐えられず、文治5年(1189)衣川館にいた義経を攻め、義経は妻子とともに自害し果てた。



住所：綾織町下綾織33地割87番地1
推薦：綾織町第7区自治会

第164号 詳細地図はP. 22

ほうりゅうだいごんげん 宝龍大権現

平泉を脱出した義経は、物見山の小田沢に立ち寄り、村長の娘が義経の子を身ごもった。その際、義経は郎党の鈴木某(一説に三郎)に生まれてくる子の養育を頼み立ち去った。その際に村の龍神社に兜と石清水八幡宮神符を奉納して、この神社に「宝龍大権現」の御神名を奉呈したという。

第52号 詳細地図はP. 23

おぐろさわ いずごんげん 小黒沢の伊豆権現とその周辺

頼朝挙兵の際、藤原秀衡は義経に小友の小黒沢産の駿馬「小黒号」を贈った。義経は衣川館を攻められた時、小黒号を放し故郷に帰らせ、この地で年老いて亡くなったという。墓標を建てたが長らく場所は不明で、大正元年(1912)、その亡き骸があったと伝わる伊豆権現の境内に「小黒号馬魂碑」を建立した。



住所：小友町47地割47番地
推薦：小友町地域づくり連絡協議会



第118号 詳細地図はP. 24

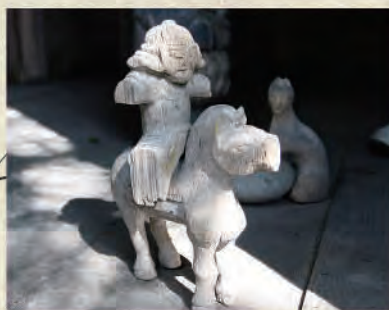
いいとよかぐら きそまい
飯豊神楽 木曾舞

木曾義仲は頼朝・義経の従兄弟にあたるが、両者と敵対し、粟津の戦いで義経に討たれる。この舞は義仲が敗れた後、義仲に仕えた3人の女武者、葵御前・巴御前・山吹御前が、東に落ち延びていく様を舞にしたもの。このほか鞍馬山で修行中の義経を題材にした演目「鞍馬舞」は、市内各神楽団体でも舞われている。



住所：土淵町(飯豊地区)

推薦：土淵町地域づくり連絡協議会



住所：土淵町柵内21地割
推薦：土淵町第5区自治会

第133号 詳細地図はP. 24

つちぶちわのあたごさま
土淵和野の愛宕様

古くから地域の火伏の神様として大切に祀られてきた。参道には山神、稲荷ひづめが祀られ、義経の愛馬がつけたと言われる蹄跡の残る石もある。社には不動明王、金勢様とともに乗馬姿の義経像(木造)が祀られている。6月24日の縁日には、お神酒挙げを行い一年の防火を祈っている。



住所：上郷町細越30地割
推薦：上郷町3区自治会

第42号 詳細地図はP. 24

ひで
日出神社

義経の娘・日出姫がこの地で亡くなり、日出明神として祀られたと伝わる。義経が住田の上有住にきた時、幼い日出姫をやむなく置いていった。姫の夢枕に「七ツ森に囲まれて暮らせ」とのお告げがあり、現在の場所に移ったという。神社の社殿は北に去っていった父を慕い、北向きに建てられたのだという。



遠野遺産以外の義経伝説ゆかりの地

① 赤川駒形神社(上郷町)

平泉を脱出した義経がここまで来たとき愛馬・小黑号が死んだため、ここに祠を建てて葬ったという。

② 風呂家(上郷町)

平泉を脱出した義経がこの家で風呂をたてさせて入浴したので、それ以来この家の姓を「風呂」と呼ぶようになったと伝えられている。

③ 続石(綾織町)

義経の家来である弁慶が持ち上げて作ったという言い伝えや、男女の山の神が遊ぶ場とも言われている。

④ 爪喰稲荷神社(土淵町)

義経は愛馬を木の枝につないで爪喰稲荷神社を参拝中、狼に愛馬の爪を食われた。このことからこの地に「爪食野」の地名が付いたという。



おらほの遺産活用術

「遠野遺産認定制度」は、地域の宝を守り伝えたいという地域の人々の思いからスタートしました。認定を受けることがゴールでは無く、認定を受けることがスタートです。認定後の様々な保護や活用は、地域の人達が主役となり、行政との市民協働で行われています。ここでは、地域の絆である遺産を守るための取り組みをご紹介します。

ケース
1

青笹八幡宮の鳥居の改修

第59号 青笹八幡宮／青笹町6区下関自治会

地域住民の心のより処を未来へ繋ぐ

中世の館跡であり、戦争の記憶を伝える場でもある青笹八幡宮は、様々な歴史を刻んできました。現在は、子どもを中心に催される宵宮祭やラジオ体操、防火訓練や清掃活動など地域住民が一堂に集まる場として親しまれています。鳥居の傷みが激しかったため自治会で改修費の原資を積み立て、地元から材料の栗の木を探して乾燥し、古い鳥居を撤去して鳥居を新しくしました。コロナ禍のなかで宵宮祭も無事行われ、地域住民の絆を一層深くしました。



⑥ 魂入れの神事



④ 境内に材料搬入・組み立て



⑤ 鳥居を立てる



③ 基礎工事



② 乾燥場から木材の運搬



① 栗の木の伐採と乾燥

ケース
2

秋の宮守 棚田サイクリング

第153号 上宮守西風の石碑群 他 / NPO 法人遠野山・里・暮らしネットワーク



イベント告知



① 棚田を自転車で体感



② 第1村人と交流 (地元の有識者)



③ 上宮守西風の石碑群を見学



④ 小沢八幡宮で休憩

遠野遺産を活かす新たな観光スタイル

NPO 法人遠野山・里・暮らしネットワークは、農家民泊などのグリーンツーリズムに取り組んできました。コロナ禍で従来の観光需要が落ち込む中、旅行メニューを見直し、マウンテンバイクと走行中も双方向通話可能なヘルメットを装着し、ガイド付きで遠野遺産や景観、食などを楽しむ「ちゃりぶら (サイクリングツーリズム)」に取り組み、次第に人気を博しています。

このほかにも！

紹介した事例のほかにも令和3年度には「みんなで築くふるさと遠野推進事業・まちづくり一括交付金」を活用し、12遺産で住民参加の遠野遺産保護活用事業が実施されました。



上中宿の熊野神社
と石碑群
(第33号)



綾織駒形神社
(第100号)



新里の愛宕神社
(第144号)



菅原神社
(第34号)



神遣神社
(第57号)



中妻観音堂
(第11号)



伊豆神社
(第14号)



繫稲荷神社
(第109号)



塚沢神社と奉安殿
(第107号)



中斉の
夫婦カツラ
(第122号)



遠野七観音
鞍迫観音
(第4号)

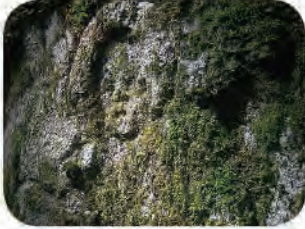


鱒沢四社・高館八幡神社
とエドヒガンザクラ
(第135号)



令和3年度に新たに認定された遠野遺産をご紹介します。

認定番号 162
ごひやくらかん
五百羅漢



種別：有形文化遺産
 所在地：綾織町新里
 31地割62番地2
 推薦団体：遠野町第11区自治会

飢饉の歴史を伝える石の羅漢

大慈寺19世義山和尚が餓死者供養のため、天明年間(1781～1789)に自然石に五百の羅漢(仏弟子)の姿を刻んだと伝えられている。かつては新滝と呼ばれ、花見の名所として親しまれた。

認定番号 165
こぐらいなりじんじや
小倉稻荷神社



種別：複合遺産
 所在地：附馬牛町上附馬牛町
 5地割45番地
 推薦団体：附馬牛町第1区自治会

附馬牛の地名発祥の地

昔、境内に大きな榎の木があり、空を覆うほどの枝の下に百頭の牛馬を放つことができたのでこの地を「榎馬牛」といったのが「附馬牛」の地名の始まりと伝えられる。境内には伝説にちなむ榎の巨木もあり、田の神として信仰されている。

認定番号 163
うなんじんじや
宇迦神社



種別：有形文化遺産
 所在地：綾織町下綾織
 37地割167番地
 推薦団体：綾織町第7区自治会

水と作物を守る土着の神

ウナン神は、宮城県から岩手県南に多く分布する水と作物の神。同神社のご神体は本地仏といわれる虚空蔵菩薩で、堂内に残る米俵や蛇、狐などを刻んだ「宇賀神」の版木等が古い由緒をうかがわせる。

認定番号 166
とおのみやもり
遠野宮守わさび



種別：無形文化遺産
 所在地：宮守町達曽部
 (涌水、白石、小通地区)
 推薦団体：達曽部地域づくり
 連絡協議会

独自の栽培方法で東北一の生産量

同地区の水わさび栽培の始まりは大正4年頃(1915)と言われ、豊富な湧水を生かした石畳式のワサビ田に、ビニールハウス被覆栽培を取り入れて冷害を克服し、通年の作業を可能にした。水わさび(根茎)の生産量は東北第1位を誇る。

認定番号 164
ほうりゅうだいこんげん
宝龍大権現



種別：有形文化遺産
 所在地：綾織町下綾織
 33地割87番地1
 推薦団体：綾織町第7区自治会

知られざる義経伝説

平泉を脱出した源義経が立ち寄り、村長の娘が義経の子を身ごもった。義経は郎党の鈴木某に生まれてくる子の養育を頼み、村の神社に兜と石清水八幡宮神符、「宝龍大権現」の神名を奉り去っていったという。現在のご神体はゴンゲンサマである。

平成19年度にスタートし、15年目を迎えた遠野遺産認定制度。郷土の誇りとして守ってきた「地域の宝」を将来まで継承し、保護活動そのものを地域の元気につなげていくための制度です。5件の推薦があり、認定調査委員会の調査の結果、すべてが遠野遺産にふさわしいと認められました。

遠野遺産認定件数

令和3年10月29日で、遠野遺産は合計**166**件になりました。

有形	無形	自然	複合	合計
81	33	14	38	166

第1～15回認定 遺産解説161 地区別

認定回数・番号・年月日

- 第1回・1～41号・H19/7/20
- 第2回・42～53号・H19/12/20
- 第3回・54～80号・H20/1/15
- 第4回・81～99号・H21/12/17
- 第5回・100～107号・H22/12/23
- 第6回・108～114号・H24/1/5
- 第7回・115～124号・H24/11/3
- 第8回・125～135号・H25/11/3
- 第9回・136～141号・H26/8/3
- 第10回・142～143号・H27/8/22
- 第11回・144～149号・H28/8/21
- 第12回・150号・H29/8/20
- 第13回・151～157号・H30/8/19
- 第14回・158～159号・R元/9/4
- 第15回・160～161号・R2/10/29

※推薦団体名は令和4年3月時点の名称で記載しています。

遠野地区→

有形文化遺産

第8号 p.24 map-8
うがじんじゅはいでんおほ きゅうせきいちりづかせきひ
宇迦神社拝殿及び旧跡一里塚石碑

中央通り1番18号 推薦：一市市商店街振興協同組合
地元ではウンナンサマと呼ばれている。拝殿は大正2年に元八幡神社より移築。旧跡一里塚石碑は昭和36年建立。ウンナンサマ信仰は水、鯉に関する信仰で、宝永2年(1705)以前にはすでにこの地にあった。



無形文化遺産

第24号 p.24 map-24
とおの だいかぐら
遠野太神楽

大工町 推薦：遠野太神楽保存会
史料によると、宝暦4年(1754)には舞われていた。囃子方は笛と、大太鼓、小太鼓の2組を1人でたたく太鼓からなり、笛は多いほうが良いとされる。南部神社例大祭、遠野まつりなどで奉納される。



無形文化遺産

第25号 p.24 map-25
とおの なんぶ
遠野南部ばやし

上組町、穀町、仲町、一日市 推薦：南部ばやし保存協議会
町方に伝わる優雅な民俗芸能。現在4地区で継承されている。太鼓、三味線、笛、大鼓、小鼓からなる囃方に唄、踊りがついており、囃子は通り、六方の二曲に分かれている。始まりは寛文元年(1661)とされる。



無形文化遺産

第28号 p.24 map-28
ひといち ひなみ
一日市のお雛見

中央通り 推薦：上一日市おかみさんの会
店や個人宅で、お雛様を飾り遊覧客に対して雛の由来などを話し、甘酒や菓子でもてなす習慣。記録では、大正2年にはすでに行われていた。交通の要衝として商家が栄え、このような習慣が生まれたと考えられる。



自然遺産

第30号 p.24 map-30
だいにちさん あかまつ
大日山のさくらと赤松

遠野町21地割120番地 推薦：遠野町15区自治会
桜は貞享2年(1685)の春、南部義長公の祈願により、善応寺住職有如法印が、湯殿山の分霊を勧請してこの境内に大日堂を建立した際に植えられたものと伝えられ、より古い風格が感じられる。



有形文化遺産

第63号 p.24 map-63
なべくらじょうあと
鍋倉城跡

遠野町4,5,6地割 推薦：遠野町地域づくり連絡協議会
天正年間(1573～1592)に阿曾沼氏が築城。後に遠野南部氏の居城となった。明治2年(1869)に廃城。玄関跡の墓石、礎石の残る本丸や家臣の屋敷があった平場、空堀などの遺構が現在も残されている。現在は、都市公園となっている。



複合遺産

第76号 p.24 map-76
たがじんじゅ ごしんぼく
多賀神社と御神木

遠野町5地割87番地 推薦：新町自治会
石鳥居と石段、御神木である杉の巨木が神聖な空間を演出している。一説には、阿曾沼氏が天正2年(1574)鍋倉山に城を移転した際に、勧請されたとも言われている。近年は参道脇に咲くアジサイの名所としても知られている。



複合遺産

第77号 p.24 map-77
かもしんじゅ ごしんぼく さくら
加茂神社と御神木の桜

早瀬町4丁目5番地25 推薦：遠野13区自治会
文治5年(1189)の創建と伝えられる。中世には阿曾沼氏の信仰が篤く、例祭には境内の馬場で競馬神事が行われたという。御神木の桜は大風で倒れたが、杉の古木、石碑が立ち並ぶ境内は、歴史を感じさせる場となっている。



有形文化遺産

第115号 p.24 map-115
かけ うえいな りじんじゅ
欠ノ上稲荷神社

東穀町441番2号 推薦：遠野3区自治会
文禄年間(1592-1595)に欠下茂左衛門が石巻の稲荷社を勧請し、享保12年(1727)現在地に遷座。祭神は倉稲魂命で本殿に神像が祀られている。旧6月15日が例祭日。登口には亀塚がある。境内からは遠野の市街地が一望できる。



有形文化遺産

第142号 p.24 map-142
いせりょうぐうじんじゅ まつおじんじゅ
伊勢両宮神社と松尾神社

六日町262、263 推薦：遠野町第10区自治会
伊勢両宮神社は、阿曾沼時代に土淵町似田貝に勧請されたのが始まりとされ、現在も「お神明さん」の名称で親しまれている。大山昨神を祀る松尾神社は、元文4(1739)年新町の豪商、両川寛兵衛が勧請したと伝えられている。



有形文化遺産

第145号 p.23-24 map-145
うねとりじんじゅ
卯子酉神社

下組町11地割1番地 推薦：遠野町第11区自治会
普代村出身の平兵衛が、文久年間に普代村にある卯子酉明神の分霊を勧請したのが始まりとされる。昔、神社の裏手に淵があり、「淵の主に宛てて、葦に恋の願いを紙に書いて結び付けておくと男女の縁が結ばれる」という伝説が残されている。



第23号 p.22 map-23

よ いし
呼ばれ石

宮守町上宮守18地割 推薦：上宮守文化振興会
国道396号沿いにある大きな岩。昔、岩の近くで人を呼ぶと、それに応じて岩も同じことを言うので、狛獅に頼んで一発石に打ってもらった。それから呼応しなくなったという。その鉄砲傷が残っているという。



第90号 p.22 map-90

と もり じん じゃ も と み や こ り ん と う
砥森神社と本宮五輪塔

宮守町下宮守31地割124番地 推薦：新町自治振興会
神社は、戦前まで旧宮守村の村社。砥森山がご神体。延暦年間(782-806)に、坂上田村麻呂が山頂に、戦勝祈願で祠を建てたのが始まりと伝わる。境内の五輪塔の下から、大正頃に室町時代の人骨と木片・鉄片が出土している。



第107号 p.22 map-107

つ か ざ わ じん じゃ ほ う あ ん で ん
塚沢神社と奉安殿

宮守町下宮守6地割48番地5 推薦：塚沢自治会
塚沢神社は元々子安地蔵尊と呼ばれ安産の御利益があり、元禄4年(1691)の棟札が残る。奉安殿は昭和7年(1932)に旧塚沢小学校に建てられた御真影、教育勅語を保管する施設。現存しているものは県内でも数例。



第155号 p.22 map-155

か み み や も り か く ら
上宮守神楽

宮守町上宮守西風地区 推薦：上宮守文化振興会
遠野八幡神楽の兄弟神楽で、遠野南部山伏神楽を称する。一説には、遠野の殿様が遠野街道を往還した際、西風の塚の松で休息した。この際、旅籠役付者を通して西風の有志に教えたのが始まりだという。上宮守神楽だけ、幕に「鍋倉神社」と印がある。



第32号 p.22 map-32

て ら さ かわ けい こ く
寺沢川溪谷

宮守町上宮守14地割、15地割 推薦：上宮守文化振興会
標高約900mの寺沢高原から標高約250mの上宮守集落まで流れ宮守川に合流するこの川を寺沢川という。この川には、4、5m程の滝が連続しており、「四十八滝」と呼ばれる景勝地になっている。



第98号 p.22 map-98

し し こ 地 し ょ う け つ こ う ち に の み や き ん じ ょ う ぞ う
鹿込小学校跡地のイロハモミジと二宮金次郎像

宮守町下宮守37地割2番地2 推薦：鹿込地区自治振興会
二宮金次郎像は昭和16年(1941)に建てられたもので、当初は銅像だったが戦争のため徴収され、現在はコンクリート製となっている。イロハモミジは、樹齢およそ150年の古木であったが、残念ながら枯れ倒木の危険があったことから、令和2年に伐倒された。



第152号 p.22 map-152

ら ん ば や ま の か み じん じゃ ら ん ば さん じん ぐ う
蘭場の山神神社(蘭場産神宮)

宮守町下宮守15地割127番地 推薦：下郷地区自治会
創建は、棟札の年代から、延享2(1745)年とされる。祭神は、「産神 木花咲耶姫」。安産を願って、奉納された小枕を持ち帰り、無事お産が済んだ後、お礼として、新しい小枕と持ち帰った小枕を奉納するという産神の信仰に関する風習がある。



第43号 p.22 map-43

た つ そ べ ほ ち ま ん じん じゃ
達曽部八幡神社

宮守町達曽部14地割78番地 推薦：達曽部地域づくり連絡協議会
旧宮守村では最も格式が高い神社とされる。創建は慶長13年(1608)である。嘉永元年(1848)に再建された現存する拝殿の天井には、色鮮やかな天井絵がある。9月15日には例大祭が行われる。



第49号 p.22 map-49

し も こ う お ど
下郷さんさ踊り

宮守町下宮守(下郷地区) 推薦：下郷さんさ踊り保存会
演目には「輪踊り」「組踊り」がある。踊手、太鼓、笛で成る。太鼓は踊りながら叩く。北海道十勝、花巻市横志田、東和町谷内を経て昭和24年に下郷に伝えられた。9月28日頃にある砥森神社例祭に奉納される。



第99号 p.22 map-99

め が ね ば し し ょ う へ ん け い か ん
めがね橋周辺の景観

宮守町下宮守30、31地割 推薦：新町自治振興会・下郷地区自治会
めがね橋周辺は、宮守川橋梁、通称「めがね橋」と周辺景観が美しく調和した景観であり、宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』をイメージさせる景観として多くの観光客が訪れる。



第153号 p.22 map-153

か み み や も り な ら い せ き ひ く ぐ ん
上宮守西風の石碑群

宮守町上宮守29地割82番地2 推薦：上宮守文化振興会
江戸時代中頃から明治期の石碑群。餓死供養塔、金毘羅塔、西国33ヶ所、念仏塔、雷神(雨乞い碑)、追分の碑、青面金剛尊碑(庚申講碑)等で構成される。旧街道沿いに位置しており、当時の上宮守西風旧街道沿いの文化を雄弁に物語っている。



第51号 p.22 map-51

い な り あ な し ら い し な り じん じゃ
稲荷穴と白石稲荷神社

宮守町達曽部54地割57番地 推薦：達曽部地域づくり連絡協議会
全長1,000mといわれる鍾乳洞である稲荷穴と、稲荷穴に隣接して所在する白石地区の稲荷神社。稲荷穴から湧き出る清水は評判がよく、岩手の名水20選に選ばれている。白石稲荷神社は、雨乞いの神社として信仰が篤く、地区の商売繁盛・五穀豊穡を願う祭典を行っている。現在も、連帯の場として活用されている。



第46号

やまざきこんせいさま
山崎金勢様

p.24 map-46

土淵町栃内16地割

推薦:山崎自治会

沢の治水工事を行った際に、金勢様が地中から発見された。以後、御宮を建立し、5月5日に例祭を行っている。子授けや女性の腰の病気に効験があり、また、豊作を司る神とも言われる。



第65号

ダンノハナと佐々木喜善墓地

p.24 map-65

土淵町山口2地割

推薦:土淵町山口自治会

山口集落を挟んでデンデラ野と向かい合う丘にある。生の空間の集落、死の空間のダンノハナ、その中間がデンデラ野として解釈される。ダンノハナには、『遠野物語』の話者・佐々木喜善の墓がある。〔国選定重要文化的景観〕



第113号

こめどおり やまかみ
米通の山の神

p.24 map-113

土淵町栃内9地割

推薦:土淵町米通地区自治会

市内に山の神の石碑が多いが、斧と刀を携えた神像が祀られているのは珍しい。12月12日は山の神の日で、山仕事に携わる人は入山を慎み、仕事を休んで年越しを祝うという行事を集落全体で今も続けている。



第119号

つちぶち おど
土淵しし踊り

p.24 map-119

土淵町(柏崎地区)

推薦:土淵町地域づくり連絡協議会

幕踊り系しし踊り。文化13年(1816)『鹿踊濫觴巻』が残されており、その頃から当地に伝承されている。『遠野物語』119話とほぼ同じ唄を歌っている。現在では土淵町唯一のしし踊り団体である。倭文神社例祭等で披露している。



第53号

てんのうさま き
天王様とモミの木

p.24 map-63

土淵町栃内5地割45番地

推薦:土淵町一ノ渡自治会

小烏瀬川、琴畑川の合流地点に、「天王様」として慕われている八坂神社がある。祭神は牛頭天王であるがピンズル尊が祀られているという。境内のモミの木は推定樹齢300年。〔市指定天然記念物〕



第80号

かくじょうだてふもと じんじやくん
角城館麓の神社群

p.24 map-80

土淵町栃内25地割

推薦:土淵町5区自治会

阿曾沼時代角城館があった頃、麓に多くの神社が建てられた。神社群の中核をなす釜平神社には安永3年(1774)銘の鯛口がある。他に、お不動様、お稻荷様、駒形神社、山神様、石神様が古道沿いに点在する。



第117号

やまぐち おど
山口さんさ踊り

p.24 map-117

土淵町(山口地区)

推薦:土淵町地域づくり連絡協議会

大正4年頃、箱石村(宮古市箱石)横沢出身の親戚からさんさ踊りが伝えられたという。桃色の衣装が華やかで人気がある。踊り手は保育園児~高校生、若いお母さん方が担っており、地区全体で取り組んでいる。



第130号

のさかぐら
野崎神楽

p.24 map-130

土淵町栃内(野崎地区)

推薦:野崎神楽保存会

明治中頃に山伏たちの舞を習得し伝承したといわれる山伏系神楽。しばらく停滞期があったものの、近年は80歳代の師範が児童生徒を指導し、地域活動の中核を担う存在となっており各種イベントで公演している。



第58号

やまぐち やくしどう
山口の薬師堂

p.24 map-58

土淵町山口2地割189番地

推薦:土淵町山口自治会

隣にある山口館主の山口修理が勧請したと伝えられる。堂には薬師如来坐像と十二神将像が祀られている。十二神将像には、それぞれ頭部に十二支の意匠が施されている。例祭は旧4月8日。〔国選定重要文化的景観〕



第103号

ひどりじんじや
倭文神社

p.24 map-103

土淵町土淵18地割174番地

推薦:土淵町10区自治会

祭神は瀬織津姫命、下照姫命。もとは文殊菩薩を祀り「おもんじゅさま」と呼ばれた。例祭は8月4日曜日で、以前は児童が文字を大書したものを奉納し、筆跡・学術の向上を祈願する風習があった。



第118号

いいとよかぐら
飯豊神楽

p.24 map-118

土淵町(飯豊地区)

推薦:土淵町地域づくり連絡協議会

文政4年(1821)にはすでに成立していた。他の神楽に比べ拍子が速く荒々しい踊りで、打ち鳴らしに特徴がある。遠野郷山伏派では最多の演目を舞える。昭和29年に中断、同43年に有志により復活。各種祭礼等で奉納。



第132号

しただ いわ
舌出し岩

p.24 map-132

土淵町栃内4地割

推薦:土淵町第1区自治会

国道340号線沿いの山地斜面にあり、龍が舌を出して麓を見下ろすように見えることから命名され、大地震にも耐えた花崗岩の巨石。昔、栃内の沼袋に住み村人を苦しめた龍が石になったという伝説が残っている。



第133号

p.24 map-133

つちぶちわのあたごさま
土淵和野の愛宕様

土淵町新里21地割

推薦:土淵町第5区自治会

文政年間の棟札があり古くから火伏せの神様として祀られている。20年程前から集落でお神酒挙げをしたところ、以降は大火がないという。社には愛宕地藏尊のほか義経像も祀られており義経伝説が残っている。



有形文化遺産

第19号

p.23 map-19

ならいだて
西風館

綾織町新里23地割100番地

推薦:綾織町日影自治会

宝徳2年(1450)に宇夫方守儀が築いた、堀切、曲輪を備えた中世の館跡。弘治3年(1557)に葛西領から夜襲を受け落城した。堀切には「千ヶ堀」という名前がついている。館跡の名残りとして八幡神社がある。



有形文化遺産

第45号

p.23 map-45

ちちがみさま こんせいさま
乳神様(金勢様)

綾織町駒崎5地割77番地

推薦:綾織町第3区自治会

乳神様(金勢様)は、大きな岩の上に立つウツコの大木に抱かれるようにして祭られている。子供が授からなかったり、お乳が出なかったりする女性が、子宝やお乳がたくさん出るよう祈願した。



自然遺産

第92号

p.22 map-92

たやおおすぎ
田屋の大杉

綾織町上綾織10地割26番地

推薦:綾織町第5区自治会

目通周囲約7.1m、樹高約30m、樹齢約1500年の巨木である。伐採しようとしたところ出血したとか、オシラサマを根元の洞に入れておいたら一夜で閉じたなど様々な伝説がある。〔市指定天然記念物〕



有形文化遺産

第159号

p.23 map-159

おどかへえはか
踊り嘉兵衛の墓

土淵町飯豊2地割42

推薦:青笹町しし踊り保存会

青笹しし踊りの重要な指導者である踊り嘉兵衛のものと考えられる墓。墓石には「霜伯道性禪定門享保15年8月16日」と、戒名と没年号が刻まれ、師の恩を偲ぶため門弟同志が建立したものと推察される。倒れた石碑を建て直し、看板・灯籠・屋根が設置されている。毎年墓前で青笹しし踊りの踊り納めを行っている。



無形文化遺産

第26号

p.23 map-26

あやおりししおど
綾織鹿踊り

綾織町中宿、砂子沢

推薦:綾織しし踊り保存会

幕踊り系しし踊り。中宿の金成という屋号の家の祖先が宮城県金の成村のしし踊りを伝えたという。かつては中宿集落だけで踊っていた。その後中宿、日影、砂子沢集落で伝承されていたが、現在は一つにまとまって活動している。



有形文化遺産

第54号

p.23 map-54

いしがみじんじゅ
石上神社

綾織町駒崎4地割79

推薦:綾織町第3区自治会

遠野三山の一つ石上山の麓に鎮座し、深い緑に包まれ、風格ある拝殿が静かにたたずむ。文治年間(1185~1190)に阿曾沼氏が勧請したという。旧綾織村の村社として広く信仰を集めた。例祭は8月第1日曜日に行われる。



自然遺産

第93号

p.23 map-93

ちようしようじ ぐり
長松寺のしだれ栗

綾織町駒崎2地割11番地52

推薦:綾織町第3区自治会

シダレグリは山野に自生するシバグリが突然変異したもの。明治30年(1897)ごろ、山師であった川興吉氏が植樹したもので、現在は墓参りに訪れる人を見守る地域のシンボルとなっている。



綾織地区→

有形文化遺産

第18号

p.23 map-18

やちだて あと はちまんぐう
谷地館の址と八幡宮

綾織町上綾織25地割100番2

推薦:綾織町第6区自治会

嘉禎元年(1235)に宇夫方広治によって築かれた平城である。現在はほとんどその痕跡はない。宝徳2年(1450)気仙の金成政実により谷地館が攻められたが、近隣の援軍に助けられ撃退したという記録がある。



複合遺産

第33号

p.23 map-33

かみなかじゆく くまのじんじゅ さきひぐん
上中宿の熊野神社と石碑群

綾織町新里19地割56番地2

推薦:綾織町第2区自治会

明治の頃、地元有志で防火の神をお祀りしたいということで勧請した。境内にある「古峯山」の碑は、まさに防火を祈願したものである。境内には石碑が建ち並び、明治24年銘の「金比羅大神」碑が最も古い。



複合遺産

第78号

p.23 map-78

はくろどう はくろいわ
羽黒堂と羽黒岩

綾織町新里8地割

推薦:綾織町第1区自治会

羽黒堂の創建は、平安時代にまで遡るともいわれる。本尊は、金銅聖観音坐像懸仏である。堂の後ろにある羽黒岩は、松の木と背比べをしたという伝説がある。伝統的な風習を伝える場ともなっており、夜籠りなどが行われている。



有形文化遺産

第100号

p.23 map-100

あやおりこまがたじんじゅ
綾織駒形神社

綾織町下綾織31地割37番地

推薦:綾織町第7区自治会

『遠野物語拾遺』14話、15話に登場する神社。保食神、月読命を祭神とし、石棒を神体とする。牛馬の病気に霊験あらたかな神社として信仰が篤く、例祭には多くの参拝者が訪れ、相撲が奉納されたという。



第108号

p.23 map-III

綾織愛宕神社

綾織町上綾織36地割12番地 推薦:綾織町第4区自治会
江戸時代の中頃、火災が多かったため見張所を置いた所に、社を建立したのが始まりで、火伏の神として信仰されている。百段余りある石段の上に、早池峰山を拝む形で鎮座。8月下旬の例祭には、地元の郷土芸能が奉納される。



複合遺産

第124号

p.23 map-III

綾織三社神社

綾織町新里13地割113番地2 推薦:綾織町第1区自治会
文政4年(1821)にはすでに信仰されていた。祭神は天照皇大神、八幡大神、春日大神の三神。例祭は10月に行われているが、もとは6月だった。例祭では芸能奉納があり、参道に氏子の屋号を書いた灯籠を立てる。



有形文化遺産

第147号

p.22・23 map-III

長岡大日神社

綾織町上綾織18地割47番 推薦:大日様を守る会
元々社は、笠通山の登山道脇の薬師小森にあり、享保元年(1716)に現在の場所へ祠を建て大日様(大日如来)を祀った。長岡集落の氏神で、田植えが終わった吉日に部落全戸から必ず一人ずつ笠通山へ登山した後、神社へ参拝し、お神楽開きを行う風習があった。



有形文化遺産

第15号

p.23 map-15

外山開墾記念碑と及川源次郎恒次の墓

小友町11地割147番地/147番地5 推薦:小友町地域づくり連絡協議会

及川源次郎恒次は外山地区開墾の祖であり、その業績を顕彰して明治40年に建立されたのが外山開墾記念碑である。その北面100mほど離れた山中に墓がある。



無形文化遺産

第110号

p.23 map-III

石上神楽

綾織町鶴崎(砂子沢地区) 推薦:石上神楽保存会
綾織町砂子沢地区で伝承される神人系神楽。明治2年(1869)に、地区の者が附馬牛村大出で神楽を習得し、石上神社の付属神楽となる。戦中に途絶え、昭和末に復活。現在は綾織町山口地区民と共に伝承している。



無形文化遺産

第138号

p.23 map-III

遠野郷南部田植え踊り

綾織町上綾織第4・5区(山口地区) 推薦:綾織町第4・5区郷土芸能保存会
寛永年間(1624~1644)の始め頃、遠野南部家下郷代官・宇方清左衛門が水田耕作技術を楽しみながら習得し農事を終えることを念願して導入したと言われている。遠野郷八幡宮例大祭や愛宕神社例大祭、綾織まつりに参加している。



有形文化遺産

第151号

p.23 map-15I

月山神社(旧胡四王薬師堂)

綾織町下綾織36地割146番地1 推薦:綾織町第7区自治会
綾織にある神社のなかで最古のものという。羽州月山権現を勧進したのが始まりとされ、修験者阿部一族の末裔によって奉祀されてきた。八戸弥六郎直栄公が立ち寄った際の聞き間違いから、明治以降月山神社と名を改め村社となった。



有形文化遺産

第16号

p.23 map-16

鷹鳥屋の西国順禮塔

小友町43地割 推薦:小友町地域づくり連絡協議会

明治10年(1877)に地区民によって建立された高さ4.5m、幅2.4mの市内最大級の石碑。塔石は二郷山で採石し、多数の人で牽引したが途中で動かなくなり、そこにあった適当な大石を台石にして建てたという。



自然遺産

第111号

p.22 map-III

石上不動岩幻の滝

綾織町鶴崎5地割(蓬畑地区石上山内) 推薦:綾織町第3区自治会
遠野三山の一つ石上山の中腹にある滝で、直下20m、水の流れる幅はおよそ30mほどある。普段は水量がなく岩のみがそびえ立っているが、雨の後など水量が増したときにだけ滝になることから「幻の滝」といわれる。



有形文化遺産

第144号

p.23・24 map-III

新里の愛宕神社

綾織町新里31地割61番地 推薦:遠野町第11区自治会
阿曾沼氏が文治年間(1185~1189)に勧進したと伝えられる、火伏の神一迎具土命を祀る神社。古くから「愛宕さん」として親しまれており、『遠野物語拾遺』第64話では、愛宕様が和尚の姿になって火事を消した逸話が語られている。



有形文化遺産

小友地区→

第1号

p.23 map-1

遠野七観音・山谷観音

小友町37地割1番地 推薦:小友町地域づくり連絡協議会
遠野七観音の第一番札所。大慈山長福寺として斉衡元年(854)に創建されたと伝えられる。元禄12年(1699)観音堂が再建され中世堂の特徴を伝える。寛保2年(1742)十一面観音像を安置。(県指定有形文化財)



無形文化遺産

第29号

p.23 map-16

新精霊

小友町(長野地区) 推薦:小友町地域づくり連絡協議会

盆の8月14日に寺、初盆の墓、家で地域の人が集まり太鼓を叩きながら念仏を唱える風習。以前は周辺の地区でも行われていた。読まれる念仏は、真言宗、浄土宗の思想で構成される。



第31号 p.23 map-31

不動巖と巖龍神社

小友町33地割4番地 推薦:小友町地域づくり連絡協議会

不動明王を勧請したのが始まりという。元禄年間(1688~1704)に拝殿などを建立。神社の背後の、高さ約54mの岩壁が不動巖。岩面には登り降りする龍の姿のような跡があり、古くより景勝地として知られる。



第44号 p.23 map-44

獅子一吼百獣脳烈の碑と獅子踊供養塔

小友町21地割 推薦:小友町地域づくり連絡協議会

獅子一吼百獣脳烈の碑は獅子踊りを創設した寛保2年(1742)に建立されたといわれる。また、獅子踊供養塔は獅子踊り再興を機に弘化3年(1846)に建立された。これらの碑は、「長野獅子踊り」発祥の証であるとされる。



第47号 p.23 map-47

八坂神社と馬子繋ぎ

小友町地割60番地/遠野市小友町(貼見地区) 推薦:小友町地域づくり連絡協議会

享保5年(1720)4月に創建、牛頭天王を祀る。多発する冷水害、凶作、疫病の鎮静祈願のため祀られたと言われ、6月の例祭の日には馬子繋ぎが行われる。



第52号 p.23 map-52

小黒沢の伊豆権現とその周辺

小友町47地割47番地 推薦:小友町地域づくり連絡協議会

この伊豆権現の創建は享保8年(1723)以前と伝えられる。源義経の愛馬である小黒号にまつわる伝説があり、小黒号馬魂碑がある。境内のイヌザクラは推定樹齢200年以上。〔市指定天然記念物〕



第55号 p.23 map-55

能傳房神社

小友町26地割138番地 推薦:小友町地域づくり連絡協議会

一生に一つだけ願いを叶えてくれるという神社。出羽修験の能傳坊と、金採掘に関わる伝説がある。村人が藪の根を掘っていたら、人骨が出てきて、これが法師の骨であるということで、塚を築き埋葬して神社とした。



第64号 p.23 map-64

及川館一族の墓

小友町16地割103番地 推薦:小友町地域づくり連絡協議会

及川館は小友宿場の東側の山上にあるが、一族36基の墓は常楽寺境内にある。及川氏は、遠野南部家の家臣として小友代官などを勤め、藩境警備にあたった。小友の発展のために尽力した一族の歴史を、今に伝えている。



第66号 p.23 map-66

氷口御祝

小友町(氷口地区) 推薦:氷口御祝保存会

祝宴に先立ち歌われる式歌。男女がそれぞれ旋律の違う歌を同時に歌い、同時に終わり、その後全員で歌うという特異な構成となっている。江戸時代から伝わるとされているが定かではない。〔市指定文化財〕



第67号 p.23 map-67

長野獅子踊り

小友町(長野地区) 推薦:長野獅子踊り保存会

幕踊り系しし踊り。一関市大東町大原長泉寺から、西来院を開創した興庵篤隆和尚に同行してきた東山五書が、慶長2年(1597)に子孫繁栄を願って伝えたといわれる。遠野郷八幡宮の役獅子。〔県指定無形民俗文化財〕



第73号 p.23 map-73

小友町裸参り

小友町(小友地区) 推薦:小友町裸参り保存会

厳寒の2月28日に、腰に注連縄、頭に鉢巻、わらじ履きに下帯姿の男たちが列をなし、巖龍神社と大般若供養塔を3往復して、五穀豊穰・無病息災などを祈願する伝統行事。〔市指定文化財〕



第74号 p.23 map-74

千本カツラ

小友町32地割50番地 推薦:小友町地域づくり連絡協議会

近くの大洞金山採掘に際して、敵側から目隠しするために植えられたものと言われる。側の民家が火災にあった時に、親木は焼けたが、その後根株からひこばえが群生して成長したという。〔市指定天然記念物〕



第75号 p.23 map-75

藤沢の滝と應瀧神社

小友町一國有林202林班うち小林班内、213林班うち小林班内 推薦:小友町地域づくり連絡協議会

藤沢の滝は、長野川の支流、藤沢川上流の溪流にある大小48の滝の総称。那智大権現が祀られる應瀧神社は、永承年間(1046~1052)に藤沢盛信が勧請したのが始まりとされ、明治初期にこの地に移されたといわれている。



第81号 p.23 map-81

角羅神社

小友町46地割70番地 推薦:小友町地域づくり連絡協議会

小友町平笹地区に鎮座する神社。集落の守り神、火の神として信仰され、かつて9月27日の祭礼前日には男性による堂籠りが行われていた。境内には小滝明神、稲荷大明神も祀られている。



第87号 p.23 map-07
 おともむらどうろ げんびょう おいわけ ひ
小友村道路元標と追分の碑

小友町16地割31番地1、58番地2 推薦：小友町地域づくり連絡協議会
 追分の碑は安永4年(1775)及川善右衛門恒親により旅人のために建立され、道路元標は大正8年(1919)道路法施行令により旧小友役場前に建てられた。ともに街道の要所であったことを示す遺産である。



第106号 p.23 map-10
 おとも すいろ くようとう
小友の水路供養塔

小友町17地割 推薦：小友町地域づくり連絡協議会
 小友町の中心部を流れる水路は、延享年間(1744～1747)に代官及川源内恒商が引いたのが始まりで、現在も利用されている。水路供養塔は、水路の永久使用を願って延享4年(1747)9月8日に富松市右衛門が建立。



第150号 p.23 map-11
 やまやししおど
山谷獅子踊り

小友町(山谷地区) 推薦：小友町地域づくり連絡協議会
 幕踊り系しし踊り。長野しし踊りの流れをくむ鷹鳥屋しし踊りから習得したことを始まりとする。「スクイ頭踊り」と呼ばれ、頭をきりながら急にはね上がる激しく勇壮な動きが特徴。現在、山谷観音役獅子、常楽寺役獅子となっている。



第34号 p.21 map-04
 すがわらじんじや
菅原神社

附馬牛町下附馬牛5地割50番地 推薦：附馬牛町第4区自治会
 本殿は三間四面、拝殿は四間二間、老杉が林立し、境内域一帯に松、杉等が茂る。『遠野物語』119話に記述があり、天神の森として有名である。祭日は旧7月25日であり、現在も行われている。



第94号 p.23 map-04
 しのじんじや さくら
篠神社と桜

小友町49地割121番地 推薦：小友町地域づくり連絡協議会
 寛永8年(1631)南部家に帰順した葛西浪士の武器を埋め、その上に社を立てて篠権現と称した。痘瘡除疫神として名高く、参拝者が多かったという。桜は開拓記念に植えられたものと伝えられる。



第143号 p.23 map-10
 こすてんのう さきひ
牛頭天王の石碑

小友町29地割7番地 推薦：小友町地域づくり連絡協議会
 文久3年(1863)、長野地域に疫病が発生したことから、新谷六郎らによって建立された高さ3mを有する大形の石碑。祀られる牛頭天王は、祇園天神とも称され、平安時代から行疫神、農業の守護神として崇め信じられてきた。



第101号 p.23 map-10
 たかつぼ うかじんじや
高坪の宇迦神社

小友町24地割1番地4 推薦：小友町地域づくり連絡協議会
 虚空蔵菩薩を祀っている。延宝9年(1681)の再興棟札が残る。明治維新後に宇迦神社と改め巖龍神社に合祀されたが、祠を遙拝所として残している。9月の第1日曜日を例祭日とし、しし踊りが奉納される。



第148号 p.23 map-10
 たかとりやししおど
鷹鳥屋獅子踊り

小友町(鷹鳥屋地区) 推薦：小友町地域づくり連絡協議会
 明治初年(1868)、長野しし踊りの習得を黎明とする。「ある時、12頭の獅子が13頭に増えていた。増えた獅子は踊りが非常にうまく、踊り終わると頭だけ残し立ち去ったので、神様に違いないと思い、獅子頭を祀り鹿子権現様として拝んだ」との伝承が残されている。



第7号 p.21 map-7
 おのしちかん のん ささやかんのん
遠野七観音・笹谷観音

附馬牛町東禅寺13地割 推薦：附馬牛町第5区自治会
 遠野七観音の第七番札所。附馬牛山長洞寺として大同2年(807)に創建されたと伝えられる。観音堂は弘化5年(1848)の建築。本尊は勢至観音である。もとは、長洞というところにあったが、70年程前に移築したという。



第17号 p.21 map-17
 ひわし さきひぐん
火渡の石碑群

附馬牛町下附馬牛(火渡集落) 推薦：附馬牛町第1区自治会
 路傍の石碑14基で、有縁無縁萬霊供養塔、西国巡礼塔、三峯山、馬頭観音、庚申塔などがある。この石碑群は、背後の田園風景とあいまって、景観的に良好であり、様々な刊行物の被写体として活用されている。



第39号 p.21 map-06
 ちようたんけい
重湍溪

附馬牛町上附馬牛(小出地区) 推薦：附馬牛町第3・7区自治会
 猿ヶ石川上流にある溪流。巨大な花崗岩が階段状に浸食され、畳を何枚も敷いたように対岸近くまで連なる。釜石線全通記念として、一般公募した沿線八景の一つにも選ばれた景勝地である。



第41号 p.21 map-41
 またいち たき ふどう
又一の滝とお不動さま

附馬牛町国有林内 推薦：附馬牛町第7区自治会
 業師岳中腹にある、直下約20mの滝と傍の不動明王を祀るお堂。紀州那智の滝は海内一と称されるが、これも亦海内一の滝であると嘆賞したことから「赤一の滝」と呼ばれ、又一の滝と称されるようになった。



第48号
はやちね おど
早池峰しし踊り
附馬牛町(張山、上柳、東禪寺地区) 推薦:早池峰しし踊り保存会
幕踊り系しし踊り。張山、上柳、東禪寺の3団体を合わせて早池峰しし踊りと称する。一説には江戸時代の中頃に遠野で習い覚えたきたと伝えられる。〔県指定無形民俗文化財〕



複合遺産

第79号
み い き さきひくん はやちね ことう
見ざる・言わざる・聞かざるの石碑群と早池峰古道
附馬牛町東禪寺3地割 推薦:附馬牛町第5区自治会
目、耳、口を塞いだ三猿を刻んだ石碑など8基の石碑が、早池峰山へ向かう古道に建ち並んでいる。三猿の石碑は庚申塔で、庚申信仰が長く続いた記念に建てたもの。石碑群と古道の雰囲気を感じさせる。



第56号
あらかわ こまがた じんじや
荒川駒形神社
附馬牛町上附馬牛14地割 推薦:附馬牛町第2区自治会
阿曾沼氏の家臣であった佐々木氏が馬産の神を祀ったことに始まる。遠くからの参詣者も列を成し、多くの信仰を集めた。奉納された多くの鳥居や絵馬はその証であり、馬産地遠野を代表する神社である。〔国選定重要文化的景観〕



有形文化遺産

第88号
はやちね いにしえ とざん どう
早池峰 古の登山道
附馬牛町(上附馬牛地区) 推薦:附馬牛町第7区自治会
遠野から早池峰山への登山道は、早池峯神社に詣で、馬留から横通り、あるいは又一の滝を経由して小田越に至り、そこから山頂を目指した。現在も愛好者などが辿る古の登山道である。



第57号
かみわかれじん じや
神遣神社
附馬牛町上附馬牛15地割 推薦:附馬牛町第7区自治会
早池峯神社へ至る道の途中にある。早池峯二十末社の首座。祭神として、遠野三山の神霊を祀る。神遣という名の起源は、遠野三山の女神たちがここから三山に別れたという故事によるものである。



複合遺産

第112号
にい やま じんじや ごしんぼく
新山神社と御神木のヒバ
附馬牛町東禪寺7地割93番地2 推薦:附馬牛町第5区自治会
草創は不明、享保15年(1730)再興の棟札が残る。境内には県内一の巨木のヒバがある。元は早池峯神社の前身である大出の新山宮の里宮だった。昭和再建の神殿は、意匠を凝らした彫刻が施され装飾性が高い。



松崎地区 →

第2号
とお のしち かん のん まつざき かん のん
遠野七観音・松崎観音
松崎町松崎11地割81番地1、82番地、83番地 推薦:松崎町地域づくり連絡協議会
遠野七観音の第二番札所。麦沢山松崎寺として大同2年(807)に創建されたと伝えられる。現在の観音堂は享保9年(1724)の再建である。本尊は古代の立木仏を偲ばせる十一面観音立像で、慶長11年(1606)の銘がある。〔県指定有形文化財〕



複合遺産

第35号
もとはち まんぐう けいだい ち およ め おとすざさくら
元八幡宮境内地及び夫婦杉桜
松崎町光興寺13地割84番地 推薦:松崎町地域づくり連絡協議会
「夫婦杉桜」は、杉と桜が根元で抱き合い、長い年月寄り添う姿は夫婦のようである。元八幡宮は、南部氏が寛文元年(1661)に八幡宮を現在の踊鹿山に遷宮した後、荒廃していたが明治以降に復興された。



第62号
さい かみ せき ひくん
妻の神の石碑群
松崎町駒木4地割1番地1 推薦:松崎町地域づくり連絡協議会
妻の神は塞の神などとも書き、村境にあり外から悪霊が入ってくるのを防ぐ神とされる。この駒木地区にある石碑群は、多くの石碑が並ぶことで古くから知られており、名所としても紹介されてきた。遠野を代表する石碑群の一つ。



第82号
むらひょういな り じんじや かね が さわいな り じんじや
村兵稻荷神社(金ヶ澤稻荷神社)
松崎町光興寺3地割45番地 推薦:松崎町地域づくり連絡協議会
文政元年(1818)豪商・村上兵右衛門が立て主となり建立した。その際に江戸の庭師を招いて見事な庭園を造り、集落の庭園も造らせた。例大祭には500人もの人々が集まり賑わったという。



第84号
あそ めまごう れきだい ひ
阿曾沼公歴代の碑
松崎町光興寺3地割9番地1 推薦:松崎町地域づくり連絡協議会
昭和28年(1953)に阿曾沼家の子孫などによって建てられた。阿曾沼家の墓碑と思われる五輪塔は菩提寺の養安寺にあったもので、一時善明寺に移ったが、その後現在地に安置されている。



第85号
き きん ひ
飢饉の碑
松崎町光興寺13地割 推薦:松崎町地域づくり連絡協議会
宝暦の飢饉の餓死者の供養碑で、宝暦7年(1757)に建てられた。石碑には「宝暦七丑年飢渴死有無縁聖霊 二月初四日」と刻まれている。宝暦の飢饉は宝暦5年(1755)に始まり、死者数千人にのぼった。



第86号 p.21 map-86
せいしん にこう ひ
清心尼公の碑

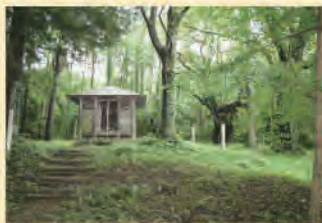
松崎町光興寺2地割 推薦:松崎町地域づくり連絡協議会
清心尼は遠野南部家第20代直政の夫人で、夫と嗣子を相次いで亡くしたため第21代を継ぎ清心尼と称された。正保元年(1644)に死去し大慈寺に葬られる。墓石は改葬された際に現在の場所に残されたものという。



複合遺産

第96号 p.21 map-96
よこた じょうあとおよ ひ かんざくら やまざくら
横田城跡及び彼岸桜と山桜

松崎町光興寺8地割 推薦:松崎町地域づくり連絡協議会
横田城は阿曾沼広郷が鍋倉山に移るまで阿曾沼氏の居城であった。城内には薬師堂があったが焼失し、現在は小堂が残る。ヒガンザクラとヤマザクラは樹齢およそ300年の古木である。〔市指定天然記念物〕



無形文化遺産

第129号 p.24 map-111
はちまん かぐら
八幡神楽

松崎町白岩(八幡地区) 推薦:松崎町地域づくり連絡協議会
明治維新以前、遠野一郷の法印たちが集まり演じたので山伏神楽とも呼ばれる遠野郷八幡宮の役神楽。昭和60年には保存会を設立、『御神楽虎の巻』の写しが残されている。



有形文化遺産

第12号 p.24 map-12
べんざい てんさま
辨財天様

青笹町榊前21地割35番地 推薦:青笹町地域づくり連絡協議会
その昔、この地域一帯は沼地であり、扇状地の末端で湧水地帯となっている。そのためか、災害、水から守るためこの地に祀られた。建立の時期は、堂内に残された棟札より文化6年(1809)以前である。



第91号 p.21 map-91
たろう ぶち
太郎淵

松崎町光興寺4地割217番地 推薦:松崎町地域づくり連絡協議会
光興寺の淵に太郎という河童が住んでいて、洗濯などに来る女たちに悪さをして困らせたという。この下の淵にも女河童が住んでいて、それぞれ太郎淵・女ヶ淵と言い、今でも2匹の河童が住むといわれている。



複合遺産

第97号 p.21 map-97
こまぎ ししおど かくすけ はか
駒木鹿子踊りと角助の墓

松崎町(駒木地区)/遠野市松崎町駒木地割14番地 推薦:松崎町地域づくり連絡協議会
幕踊り系しし踊りである駒木鹿子踊りは、駒木の角助という者が習い覚えて伝えたと言われる。角助の墓前では感謝の意を込め、踊り初め、踊り納めが行われる。〔駒木鹿子踊り:県指定無形民俗文化財〕



無形文化遺産

第139号 p.24 map-139
おの なんぶ やぶさめ
遠野南部流鍋馬

松崎町白岩23地割19番地 推薦:遠野南部流鍋馬保存会
八戸南部氏4代師行が建武年間、八戸根城に居を構えた時に三戸の櫛引八幡宮に奉納したことが起源とされる。現在も旧習に従って遠野郷八幡宮例祭、八戸櫛引八幡宮例祭に神事として奉納を継続している。〔市指定文化財〕



有形文化遺産

第13号 p.24 map-13
きゅうあお ささむら やく ばちょうしゃ
旧青笹村役場庁舎

青笹町青笹13地割1番地8 推薦:青笹町地域づくり連絡協議会
昭和28年(1953)に青笹村役場庁舎として建設された。総建坪約118坪、2階建て 建築様式ハロータイル建築、二重窓、屋上展望台、時報装置付き。現在は「青笹町民俗館」として活用されている。



第95号 p.21 map-95
はなりのみょうじん いた こうづか
母也明神と巫女塚

松崎町松崎2地割91 推薦:松崎町地域づくり連絡協議会
ある巫女が婿を疎ましく思い、壊の人柱にしようとしたところ、娘まで人柱になり壊に沈んでしまった。悲しんで入水した巫女を祀ったのが母也明神だという。また、近くには巫女、娘、婿の石碑があり、巫女塚として供養されている。



有形文化遺産

第102号 p.21 map-102
すわ じんじや
諏訪神社

松崎町光興寺2地割6番地 推薦:松崎町地域づくり連絡協議会
承久3年(1221)阿曾沼親郷が信濃国へ出陣の際、諏訪湖畔で蛇妖を退治し諏訪大神から神剣を賜り、帰国後その分霊を勧請した。境内の楓は諏訪大社からの移植といい、紅葉の美しさは遠野随一と言われる。



青笹地区→

有形文化遺産

第11号 p.24 map-11
なかつま かのんどう
中妻観音堂

青笹町青笹32地割23番地 推薦:青笹町地域づくり連絡協議会
もとは喜清院を開基した佐々木出雲の氏神だという。大正2年頃に廃社となったが住民の崇敬が篤い。以前は31地割に建てられていたが、明治40年(1907)の水害により現在地に移されたと言われている。



無形文化遺産

第27号 p.24 map-97
あお ささ おど
青笹しし踊り

青笹町 推薦:青笹町地域づくり連絡協議会
遠野に典型的な幕踊り系しし踊り。寛政3年(1791)頃に伝えられた。昭和39年(1964)に榊前、中下、中沢の三集落のしし踊りが統合し保存会を結成。〔国選択記録・県指定文化財〕



第37号
あらがみ じんじや
荒神社

青笹町中沢21地割 推薦：青笹町地域づくり連絡協議会
茅葺の社殿、御神体は権現様。春先は水を張った田んぼの中のお社、秋は黄金色に囲まれたお社として見栄えのする風景であり、遠野らしい風景として知られ、多くのメディアに取り上げられ有名になった。



第59号
あおざさ はちまんぐう
青笹八幡宮

青笹町青笹10地割 推薦：青笹町地域づくり連絡協議会
阿曾沼氏の時代に菊池成景の居館があったという。戦時中盛んに信仰され、出征者の武運を祈る人が後を絶たなかった。戦時中の八幡参りや忠魂碑、英霊堂があることから、八幡信仰との複合的な民間信仰の場となっている。



第60号
かつさん しんぜんぐう
月山深山宮

青笹町中沢11地割 推薦：青笹町地域づくり連絡協議会
創建は明らかではない。延宝7年(1679)再建の記録があり、現在の本尊三体が安置された。お宮の中にある5体の焼損古仏は、平安時代の作と見られ市内でも特に古い仏像として知られる。昔は拝殿や大鳥居もあったという。



第83号
や さか じんじや
八坂神社

青笹町榊前17地割54番地 推薦：青笹町地域づくり連絡協議会
600年ほど前、京都の八坂神社の神霊を勧請して祀ったのが始まりとされる。その後篤く崇敬を集め、地域の人々に「天王様」と親しまれている。祭神は素戔鳴尊、牛頭天王。



第104号
やすど しやういち いなり じんじや
安戸の正一位稲荷神社

青笹町榊前34地割37番地 推薦：青笹町地域づくり連絡協議会
中館氏の氏神であるとも、文化年間(1804～1817)に小友から移住してきた菊池文吾が安住祈願のために建立されたとも言われる。かつては付近の山伏が集まって祭礼が行われ、巫女が湯をたて入浴させたという。



第114号
ろっこう し じんじや
六角牛神社

青笹町榊前41地割2(ほか) 推薦：上糠前自治会
創建は不明。権現様と、明和8年(1771)と安永年間の幟が伝わる。境内の大銀杏が見事。元は中沢の六神石神社と同様の字だったが、混同を避け六角牛となった。例祭は旧暦8月15日前夜、郷土芸能が奉納される。



第116号
さわた ごまがた じんじや こみね さんせきひ
沢田駒形神社と古峯山石碑

青笹町榊前24地割3番地4 推薦：沢田自治会
明治38年(1905)創建と考えられる。現在のお堂は大正7年に建てられた。絵馬が奉納され、地域では家畜の安全を祈願する。昭和6年銘の古峯山の石碑がある。1月16日には住民が集まり餅を食べる習慣がある。



第121号
きせいん ざくら
喜清院のシダレ桜

青笹町青笹6地割16番地 推薦：青笹町第4区自治会
享保5年(1720)、六世積元和尚が南部家から拝領し、堂前に手植えたというシダレザクラが明治23年(1891)に火災で焼失、その実生を植えたものが現在の木である。〔市指定天然記念物〕



第3号
とのお しちかんのん ひらくら かのん
遠野七観音・平倉観音

上郷町平倉47地割34番地 推薦：上郷町地域づくり連絡協議会
遠野七観音の第三番札所。谷行山細山寺として大同3年(808)に創建されたと伝えられる。本尊は十一面観音で、堂舎は宝暦10年(1760)に再建された。江戸中期の装飾性の強い仏堂建築である。〔市指定文化財〕



第14号
いず じんじや
伊豆神社

上郷町来内6地割20番地384番地 推薦：上郷町地域づくり連絡協議会
創建は不明。大同年間(806～809)早池峰を開山した始閼藤蔵が厚く信仰したといわれる。現存すると思われる最古の棟札は元文2年(1737)再興のもの。遠野三山伝説の発祥の地である。



第20号
すべ たとうけいち りづか
辻田峠一里塚

上郷町細越2地割5番地 推薦：上郷町地域づくり連絡協議会
2基1対、高さ2.5mと2.9mで、完全な形が残っている。一里塚は、街道に1里(約4km)ごとに土を盛り、木を植え里程の目標としたもの。〔市指定文化財〕



第42号
ひで じんじや
日出神社

上郷町細越30地割 推薦：上郷町3区自治会
義経の娘、日出姫がこの地で亡くなったという伝説がある。旧上郷村の村社である。眼病に効験があるとして、江戸時代には遠野南部氏からの篤い信仰があった。例祭は6月第3日曜日に行われている。



第61号
あかほねいなりじんじや
赤羽根稲荷神社
上郷町平倉41地割55番地 推薦：上郷町9区自治会
創建は天文年間(1532～1555)と伝えられる。旧高田街道赤羽根峠への入口に位置し、祭日には多くの参拝客で賑わった。現在の社殿は、文久3年(1863)に再建されたもの。苔むした石段と杉並木の雰囲気は素晴らしい。



第68号
いたざわ おど
板澤しし踊り
上郷町(板沢地区) 推薦：上郷町地域づくり連絡協議会
幕踊り系しし踊り。江戸後期に菊池田子助が、現在の静岡県掛川で見た踊りに感動し覚え伝えたという。伝書には弘化3年(1846)に城屋敷で踊るとあることから、それ以前より踊られていた。〔県指定無形民俗文化財〕



第69号
さひない おど
佐比内しし踊り
上郷町(佐比内地区) 推薦：上郷町地域づくり連絡協議会
幕踊り系しし踊り。駒木鹿子踊りから伝えられたという。口伝では、近世の遠野南部氏の時代に、城屋敷に上り踊ったという。また、万延元年(1860)佐比内高炉建設の際、山神祭に佐比内からしし踊りが来たという話がある。



第70号
ほそこえししおど
細越獅子踊り
上郷町(細越地区) 推薦：上郷町地域づくり連絡協議会
幕踊り系しし踊り。上郷町板澤しし踊りの分派、火尻しし踊りから昭和7年(1932)に師匠を招いて伝習した。明治17年(1884)には踊られていたという伝承もある。上郷町日出神社、森ノ下伊勢両宮社の役獅子を務めている。



第89号
おみやえもんはか
近江弥右衛門の墓
上郷町佐比内32地割39番地 推薦：上郷町地域づくり連絡協議会
近江弥右衛門は戦国時代末期に遠野へ来て金山開発や佐比内地区の開拓などを行った人物で、伝承によると墓坪かぶをもたらしたという。かつては旧暦3月3日に墓前で祭りが行われていた。



第105号
ひらのほらしんめいじんじや
平野原の神明神社
上郷町平野原2地割23番地 推薦：平野原部落公民館
祭神は天照大神。弘化4年(1847)の幟が奉納されている。宝暦10年(1760)ごろに書かれた『御領分社堂』に「平倉村(中略)俗別当(中略)神明・熊野権現 文七」とあり、それ以前に建立された。



第109号
つなぎいなりじんじや
繋稲荷神社
上郷町平倉1地割62番地 推薦：上郷町第8区自治会
元禄16年(1703)に遠野南部家臣の福田氏が勧請した。麓の鳥居から社に続く参道にはすべて花崗岩の切石が敷かれ見事。寄進碑によれば弘化4年(1847)に作られたとあり、平倉村の村社として厚い信仰を集めた。



第131号
むらくらかぐら
平倉神楽
上郷町平倉(平倉地区) 推薦：上郷町第8区自治会
明治34年に宮守町塚沢から師匠を招き習得した早池峰岳神楽系の神楽。週1回の練習日を設けて40数番からなる舞の習得に努め、現在23番の舞を習得している。地元日出神社例祭等に奉仕し、精力的に公演している。



第134号
もりした いせりょうくうじんじや
森ノ下の伊勢両宮神社
上郷町細越10地割34番地 推薦：上郷町第1区森ノ下自治会
創建時期には、享保17年の大飢饉頃とする説、寛政12年の伊勢参り後とする説があり、300年近い歴史を有し天照大御神と豊受姫神を祀る神社。遠野三山が一望でき、参道脇の紫陽花も美しい。



第136号
くまのじんじや ろっこうたいごんげん
熊野神社・六角牛大権現
上郷町佐比内31地割1番地 推薦：上郷町第5区自治会
文政2年(1819)以前の創建といわれ、『遠野物語拾遺』129話に、盗まれたご神体が佐比内の鉦炉でも溶けなかったため、盗人が恐れをなして返したという逸話が残されている。また、境内には小さな河童狛犬も鎮座している。



第140号
おおみねこうざんあと しゅうへん
大峰鉦山跡とその周辺
上郷町佐比内15地割89番地 推薦：上郷町地域づくり連絡協議会
天正年間(1573～1592)近江弥右衛門の金山開発に始まる。万延元年(1860)頃には清岡澄により洋式高炉が築かれ、昭和5年(1930)には農業用灌漑ダムが建設された。佐比内高炉跡は平成19年に経産省の近代化産業遺産に認定されている。



第5号
とおのしちかんん みやもりかんん
遠野七観音・宮守観音
宮守町上宮守4地割 推薦：上宮守文化振興会
遠野七観音の第五番札所。月見山平沢寺として大同2年(807)に創建されたと伝えられる。本尊の千手観音立像は総高77cmで江戸後期の作である。もとの本尊は、火災に遭った混乱で失われてしまった。



第23号 p.22 map-23

よ いし
呼ばれ石

宮守町上宮守18地割 推薦：上宮守文化振興会
国道396号沿いにある大きな岩。昔、岩の近くで人を呼ぶと、それに応じて岩も同じことを言うので、狛獅に頼んで一発石に打ってもらった。それから呼応しなくなったという。その鉄砲傷が残っているという。



第90号 p.22 map-90

と もり じん じゃ も と み や こ り ん と う
砥森神社と本宮五輪塔

宮守町下宮守31地割124番地 推薦：新町自治振興会
神社は、戦前まで旧宮守村の村社。砥森山がご神体。延暦年間(782-806)に、坂上田村麻呂が山頂に、戦勝祈願で祠を建てたのが始まりと伝わる。境内の五輪塔の下から、大正頃に室町時代の人骨と木片・鉄片が出土している。



第107号 p.22 map-107

つかざわ じん じゃ ほうあん だん
塚沢神社と奉安殿

宮守町下宮守6地割48番地5 推薦：塚沢自治会
塚沢神社は元々子安地蔵尊と呼ばれ安産の御利益があり、元禄4年(1691)の棟札が残る。奉安殿は昭和7年(1932)に旧塚沢小学校に建てられた御真影、教育勅語を保管する施設。現存しているものは県内でも数例。



第155号 p.22 map-155

か み み や も り か く ら
上宮守神楽

宮守町上宮守西風地区 推薦：上宮守文化振興会
遠野八幡神楽の兄弟神楽で、遠野南部山伏神楽を称する。一説には、遠野の殿様が遠野街道を往還した際、西風の塚の松で休息した。この際、旅籠役付者を通して西風の有志に教えたのが始まりだという。上宮守神楽だけ、幕に「鍋倉神社」と印がある。



第32号 p.22 map-32

て ら さ かわ けい こ く
寺沢川溪谷

宮守町上宮守14地割、15地割 推薦：上宮守文化振興会
標高約900mの寺沢高原から標高約250mの上宮守集落まで流れ宮守川に合流するこの川を寺沢川という。この川には、4、5m程の滝が連続しており、「四十八滝」と呼ばれる景勝地になっている。



第98号 p.22 map-98

し し こ 地 し ょ う け つ こ う ち に の み や き ん じ ょ う ぞ う
鹿込小学校跡地のイロハモミジと二宮金次郎像

宮守町下宮守37地割2番地2 推薦：鹿込地区自治振興会
二宮金次郎像は昭和16年(1941)に建てられたもので、当初は銅像だったが戦争のため徴収され、現在はコンクリート製となっている。イロハモミジは、樹齢およそ150年の古木であったが、残念ながら枯れ倒木の危険があったことから、令和2年に伐倒された。



第152号 p.22 map-152

らん ば や ま の か み じん じゃ ら ん ば さん じん ぐう
蘭場の山神神社(蘭場産神宮)

宮守町下宮守15地割127番地 推薦：下郷地区自治会
創建は、棟札の年代から、延享2(1745)年とされる。祭神は、「産神 木花咲耶姫」。安産を願って、奉納された小枕を持ち帰り、無事お産が済んだ後、お礼として、新しい小枕と持ち帰った小枕を奉納するという産神の信仰に関する風習がある。



第43号 p.22 map-43

た つ そ べ ぼ ち ま ん じん じゃ
達曽部八幡神社

宮守町達曽部14地割78番地 推薦：達曽部地域づくり連絡協議会
旧宮守村では最も格式が高い神社とされる。創建は慶長13年(1608)である。嘉永元年(1848)に再建された現存する拝殿の天井には、色鮮やかな天井絵がある。9月15日には例大祭が行われる。



第49号 p.22 map-49

し も こ う お ど
下郷さんさ踊り

宮守町下宮守(下郷地区) 推薦：下郷さんさ踊り保存会
演目には「輪踊り」「組踊り」がある。踊手、太鼓、笛で成る。太鼓は踊りながら叩く。北海道十勝、花巻市横志田、東和町谷内を経て昭和24年に下郷に伝えられた。9月28日頃にある砥森神社例祭に奉納される。



第99号 p.22 map-99

め が ね ば し し ょ う へ ん けい かん
めがね橋周辺の景観

宮守町下宮守30、31地割 推薦：新町自治振興会・下郷地区自治会
めがね橋周辺は、宮守川橋梁、通称「めがね橋」と周辺景観が美しく調和した景観であり、宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』をイメージさせる景観として多くの観光客が訪れる。



第153号 p.22 map-153

か み み や も り な ら い せき ひ ぐ ん
上宮守西風の石碑群

宮守町上宮守29地割82番地2 推薦：上宮守文化振興会
江戸時代中頃から明治期の石碑群。餓死供養塔、金毘羅塔、西国33ヶ所、念仏塔、雷神(雨乞い碑)、追分の碑、青面金剛尊碑(庚申講碑)等で構成される。旧街道沿いに位置しており、当時の上宮守西風旧街道沿いの文化を雄弁に物語っている。



第51号 p.22 map-51

い な り あ な し ら い し な り じん じゃ
稲荷穴と白石稲荷神社

宮守町達曽部54地割57番地 推薦：達曽部地域づくり連絡協議会
全長1,000mといわれる鍾乳洞である稲荷穴と、稲荷穴に隣接して所在する白石地区の稲荷神社。稲荷穴から湧き出る清水は評判がよく、岩手の名水20選に選ばれている。白石稲荷神社は、雨乞いの神社として信仰が篤く、地区の商売繁盛・五穀豊穡を願う祭典を行っている。現在も、連帯の場として活用されている。



第71号
ぎょうざんりゅうわくみずししおどり
行山流湧水鹿踊

宮守町達曽部(湧水地区) 推薦: 行山流湧水鹿踊保存会
達曽部湧水地区に伝わる市内で唯一の太鼓踊り系しし踊り。身につけた太鼓を自ら打ちながら踊る。奥州市江刺区梁川の行山流久田鹿踊の流れをくむ。慶応2年(1866)に佐々木多郎が踊ったのが始まりという。〔遠野市指定文化財〕



第137号
しょういち い ものいな りじんじや
正一位 鑄物 稲荷神社

宮守町達曽部 21 地割 2 番 推薦: 達曽部 3 区自治会
多田茂兵衛が、天保 3 年(1832)に勧請し、天保 11 年(1841) 9 月に毛利出雲守の許可を得て、家の守護神として京都伏見稲荷本宮神社より分霊を祀ったことが始まりといわれる。奥の院は総ケヤキ造り松皮葺で、精巧な彫刻が施されている。



第156号
わくみずねんぶつ
湧水念仏

宮守町達曽部湧水地区 推薦: 達曽部 7 区自治会
「念仏衆」と呼ばれる地区民が、寺や墓前で太鼓と笛、鐘(当たり鉦)、手平鉦を奏でて死者を供養するもの。希望があれば自宅まで出向き位牌の前でも行う。通常 6 人程度で構成され、練習は 8 月 7 日から 14 日の 1 週間程で行われる。



第120号
ますざわかくら
鱒沢神楽

宮守町(上鱒沢地区) 推薦: 上鱒沢地区自治会
大出早池峰神楽の流れをくむ神楽で、神道流神人派を称する。文化7年(1810)に同神楽から伝授された。昭和20年の敗戦後中断、同57年に復活した。鱒沢2区民が主体となり伝承している。〔市指定文化財〕



第72号
わくみずかくら
湧水神楽

宮守町達曽部(湧水地区) 推薦: 湧水神楽保存会
昭和7年(1932)に、花巻市大迫町内川目の岳神楽の流れをくむ合石神楽から伝習して成立した。達曽部中斎地区の、駒形神社やオボスナの祭りに奉納する。昔は近隣の附馬牛町や大迫町内川目・外川目地区にも門掛けしたという。



第141号
まいた くまのじんじや ごしんぼく
米田の熊野神社と御神木

宮守町達曽部 30 地割 16 番 推薦: 達曽部 3 区自治会
文明 8 年(1476)米田(舞坂)、坂本、駒場の三箇所に建立した三熊野神社が始まりという。熊野大権現を祀ると共に如意輪観音も安置されている。樹齢 500 年の御神木。しめ縄に異物を挟んだりすると別当はすぐ頭痛がするとの逸話が残る。



第122号
なかさい めおと
中斉の夫婦カツラ

宮守町達曽部 46 地割 34 番地 推薦: 達曽部 6 区自治会
樹齢 300 年以上、宮守町の代表的老巨樹で、二株が並んでそびえ立つことから夫婦カツラと呼ばれている。北株の根元からは清水が湧き出て多面に恵みを与える御神木として尊崇されてきた。樹下には水車がある。



第154号
なかさいごまがたじんじや
中斉駒形神社

宮守町達曽部 43 地割 49 番地 1 推薦: 達曽部 5 区自治会
寛政 3 (1791) 年以前の建立とされる。地域住民が堂宇を建立し、牛馬の安全を祈願したのが始まり。以来各地より多くの参拝者が訪れ、「中斉の駒形さん」として信仰を集めた。堂宇内には、奉納された絵馬が数多く残されている。



鱒沢地区 → 有形文化遺産
第4号
とおのしちかんのおん くらはさまかんのん
遠野七観音・鞍迫観音

宮守町上鱒沢 18 地割 90 番地 推薦: 上鱒沢地区自治会
遠野七観音の第四番札所。鞍迫山福滝寺として仁寿2年(852)に創建されたと伝えられる。万治2年(1659)に観音堂が全焼、この時に観音像の表面が炭化した。観音堂は県内でも有数の江戸前期の大堂である。〔県指定有形文化財〕



第50号
ちやうせんじき
長泉寺かやの木

宮守町上鱒沢 13 地割 77 番地 推薦: 上鱒沢地区自治会
かやの木がある長泉寺は、天正2年(1574)阿曾沼氏の重臣、鱒沢左馬助が創建した。1610年前後に5代目鱒沢広恒の子が境内にあるかやの木の下で処刑されたとされている。〔市指定天然記念物〕



第123号
かみまさざわ さるがししかわぞ さくらなみき
上鱒沢の猿ヶ石川沿いの桜並木

宮守町上鱒沢 1 地割 14 番地 2 推薦: 上鱒沢地区自治会
昭和23年アイオン台風による猿ヶ石川流域の水害後、堤防が築造された。完成を記念し地元出身の菊池賢次郎が、ソメイヨシノの苗木を寄贈し、青年会がこれを植樹。地区では、40年以上前から桜の手入れを行っている。



第125号
かしわざいだいら ともりじんじや
柏木平の砥森神社

宮守町下鱒沢 24 地割 14 番地 2 推薦: 柏木平地区自治会
享保13年(1729)建立の棟札が残る。下宮守と東和にも同じ名称の神社があり、砥森山信仰の篤さが伺われる社のひとつで、昔は砥森山への登り口でもあった。元朝参りには地域ぐるみで富くじなどが行なわれている。



第126号

p.22 map-16

ますざわ よんしゃ しら いし じん じゃ かぶとみょうじん
鱒沢四社・白石神社 (兜明神)

宮守町下鱒沢33地割176番地1 推薦：鱒沢3区自治会
 万治年間(1658～1660)宮城県の白石地藏尊を勧請したといわれる。侍が女神からのお告げを受けて勝利し、兜の形をした石を祀り、ひとりも戦死者がなく「兜明神」ともいわれる。



第127号

p.22 map-17

ますざわ よんしゃ あた こ じん じゃ
鱒沢四社・愛宕神社

宮守町下鱒沢31地割 推薦：鱒沢3区自治会
 文化12年(1815)建立の棟札が残る愛宕神社で、文化11年(1814)の棟札がある金比羅社を合祀しており、山頂にもかかわらず夏でも枯れない湧水がある。建立当時の資材は人力で運搬されたが、今では車が登れる裏参道が整備された。



第128号

p.22 map-18

ますざわ よんしゃ すい じん さま
鱒沢四社・お水神様

宮守町下鱒沢34地割201番地 推薦：鱒沢3区自治会
 昔、旅人が湧水の美味しさに感激し歌を詠んだ逸話がある。昭和36年に簡易水道施設が整備され、感謝と祈願、以前に赤痢で亡くなった人々を弔う水神碑として信仰されている。



複合遺産

第135号

p.22 map-18

ますざわ よんしゃ たかだてはちまんじんじゃ
鱒沢四社・高館八幡神社とエドヒガンザクラ

宮守町下鱒沢34地割 推薦：鱒沢3区自治会
 阿曾沼氏家老、面懸左衛門之尉の居館跡に建立された八幡神社。境内には地域の人々に護られて、館主の手植えと伝えられる樹齢推定800年程の市指定天然記念物エドヒガンザクラの巨木があり、憩いの場となっている。



複合遺産

第157号

p.22 map-17

まよ おか こま がた じん じゃ いち り づか
迷岡駒形神社と一里塚

宮守町下鱒沢7地割222番地2 推薦：迷岡自治振興会
 地域の拠り所である神社と隣接する一里塚。迷岡駒形神社は、狩人孫之丞が、馬を誤って撃ったのを詫び、蒼前様の宮を建て祀ったのが始まり。一里塚は、遠野南部家の命により、花巻から遠野に至る街道に築かれた中の1つ。2基1対が良く残っている。



無形文化遺産

第161号

p.22 map-19

ますざわ し し おど
鱒沢獅子踊り

宮守町下鱒沢 推薦：鱒沢しし踊り保存会
 鱒沢で伝承される幕踊り系のしし踊り。南部家の歴史書『三翁昔語』に記載があり、江戸中期の孟蘭盆には精霊供養の踊りとして踊られていたようである。
 現在は、高館集落が中心となり保存・継承活動を行っている。昭和54年(1979)からは鱒沢小学校児童に伝承され、運動会で披露される他、地域の祭りで奉納されている。



遠野遺産のしくみ

私たちの住む遠野には、先人から受け継いできた豊かな自然や伝統的な文化など、たくさんの“たからもの”があります。遠野遺産認定制度は、市民にとって次世代へ残すべき地域の“たからもの”を「遠野遺産」として認定するもので、平成19年に遠野遺産認定条例を制定してスタートしました。

「有形文化遺産(建造物や旧跡など)、無形文化遺産(郷土芸能や伝統行事など)、自然遺産(植物や地形など)、複合的遺産(有形、無形、自然が複合するもの)に分類される、遠野らしいものであって、市民によって保護されこれから先も継続して保護されるとともに地域振興等に活用されるもののうち、市長が認定したものが遠野遺産となります。



推薦について

■対象

有形文化遺産(建造物や旧跡など)、無形文化遺産(郷土芸能や伝統行事など)、自然遺産(植物や地形など)、複合的遺産(有形、無形、自然が複合するもの)のうち遠野らしいもので、市民の手で保護・活用されるもの。

■推薦資格

主に市内在住者で構成する地域づくりに関する団体

■推薦方法

所定の推薦書に写真などの資料を添付し、最寄りの地区センターに提出

■その他

募集は年1回行われます。募集期間や推薦方法などの詳細については、遠野市民センター文化課(TEL 0198-62-2340)、もしくは各地区センターまでお問い合わせください。

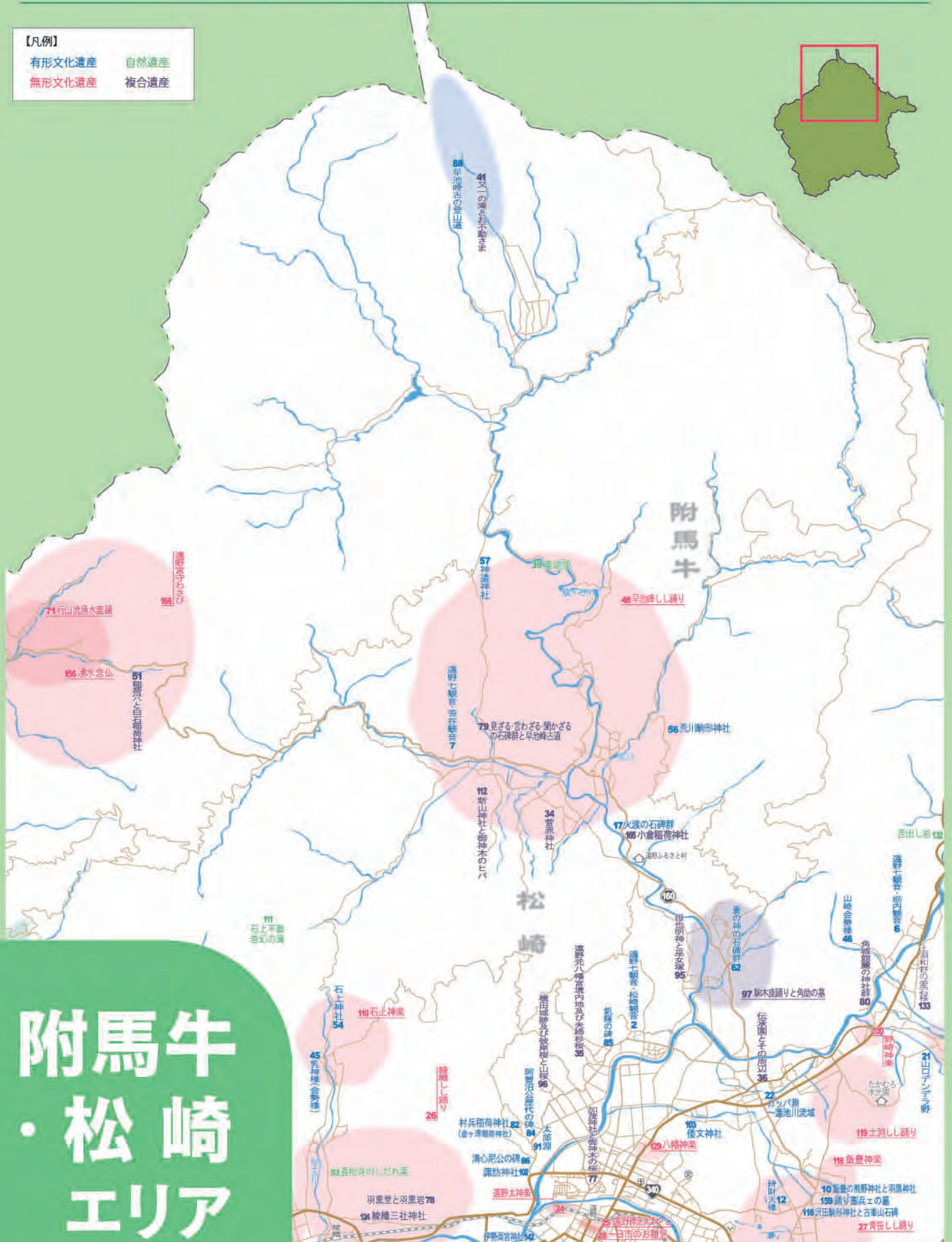
「みんなで築くふるさと遠野」推進事業補助金とは?

市民と行政の協働の理念に基づき、市内の地域づくり連絡協議会や自治会、その他の団体が創意と工夫を凝らした特色あるふるさとづくり、人づくりを目的に行う事業に対して補助するもので、遠野遺産については平成19年度から実施しています。事業実施にあたっては、各地区センター、遠野市民センター市民協働課(TEL 0198-62-4411)までお問い合わせください。

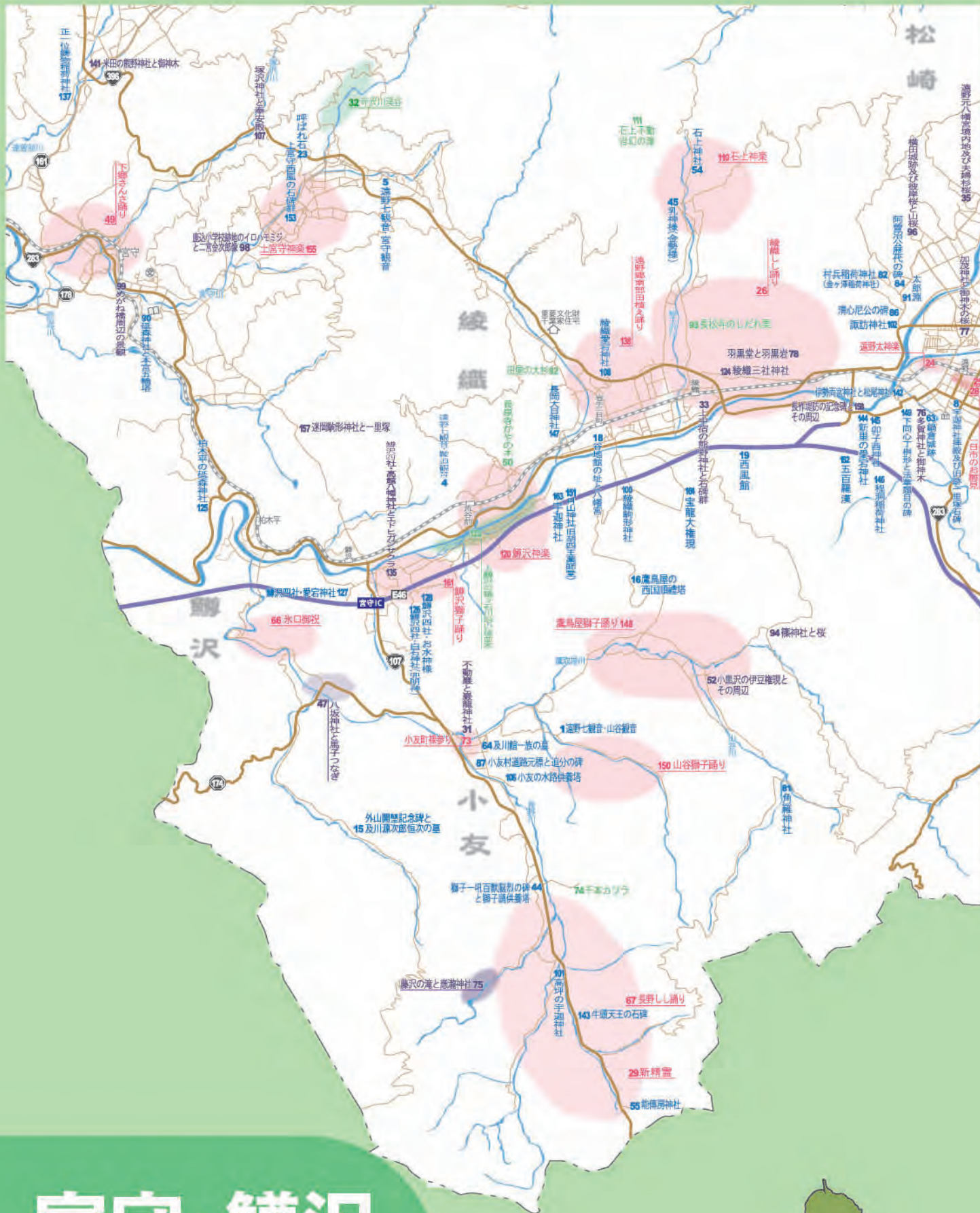
遠野遺産マップ

【凡例】

- 有形文化遺産 自然遺産
- 無形文化遺産 複合遺産



附馬牛・松崎エリア



宮守・鱒沢 綾織・小友 エリア



遠野・土淵 青笹・上郷 エリア

